

国語の力がすべての教科学習の原動力であることは、昔から多くの
人々に認められていたが、近年、アメリカで、人間工学研究所が大々
的な調査を行ない、科学的にこれを実証したという。

中学生・高校生・大学生から工場勤務者・大会社幹部・社長クラスま
で、40万人もの人に対して調査した結果、地位の上下、収入の多少が
国語の力と正比例しており、また、学校の成績も同様であることが明ら
かにされたのである。

このテストで最高点を取ったのは、著名な大会社の社長で、得点は
272点。幹部級の平均点は140点。課長級は114点。係長級は86点。
……このように、地位の上下、収入の多少が、国語の力と全く正比例し
ていたのである。

これは学校でも同じで、医学・工学・法律・経済……その専攻科目の
いかにかわらず、この国語のテストで最高点を取った学生が、そ
の学部でもやはり最高の成績を取っていたのである。つまり、『**国語力
は、学校においても、社会においても、成功のための第一の要件であ
る**』ことが証明されたのである。

ところで、わが国では、深い意味を持ったことばの多くは漢語である。

漢語は、漢字を知らなくては、正確な深い理解は不可能である。だから、
わが国で成功するためには、何よりも漢字を数多く、正確に理解するこ
とが絶対に必要だと言うことができる。

ある会社の入試に、「危機一髪」を「危機一発」と書いた者が多かった
と言う。漢字をこのように誤って書くということは、そのことばの持つ正し
い意味を知らないことによる。それは単に漢字の知識の有無という、小
さな問題ではない。そういう貧弱な国語力では、どんなに有益な書物を
読んだって、正しい深い理解はできず、読書から得られるものも、した
がって少なくなるから大問題である。

書物から知識を吸収する力は国語力であり、とりわけ漢字力である。
だから、学問に志す者は、まずすぐれた漢字力を身につけることに努
力することが肝要である。